

一般助成(子どもの健全育成支援)

「絆を深める親子の造形活動」事業

親子と一緒に造形活動に参加してもらうことで心の癒やしや子ども理解の機会を得る場を提供

子どもや大人だけを対象とした造形講座は多く存在するが、親子を対象とした造形講座は意外と少ないのが現状である。親子の絆を深める造形活動を通して子どもを理解する機会を提供することで、悲惨な虐待などのない情愛のある家庭を築いてほしいという願いを込めて、陶芸教室や造形活動事業が実施された。



乳幼児を対象とした造形教室「絵の具なないろ」では、講師・助手による子育てへのアドバイスも実施



コロナ禍でストレスが増えた親子を陶芸教室や造形教室でサポートする

東京都新宿区四谷に拠点を置くNPO法人「市民の芸術活動推進委員会(CCAA)」は、親子を対象とした造形・陶芸教室の開講、成人を対象とした陶芸教室・竹工芸教室・染教室の開講、障がい者を対象とした造形教室・舞踏教室の開講などのほか、貸し画廊の経営、幼稚園・放課後デイサービスへの講師派遣(現在はコロナ禍のため中止)など、オール市民を対象とした芸術活動を推進している。

コロナ禍にあって、自宅での仕事や待機が増えるなか、これまで少なかった親子での接触が急に増えたことで、うまく付き合えずにストレスがたまっている家庭が増えたという報道を見かけることが少なくない。このような状況下にあっ

て、造形環境の整った空間で、親子と一緒に陶芸教室や造形教室などに参加することで心の癒やしや平安な感情を醸成するとともに、保護者に新たな子ども理解の機会を提供することを目的に、POSCの助成を活用して、親子の造形教室を展開することにした。

なお、新型コロナウイルス感染防止の観点から、参加者を15組(30名)以内と限定し、また、会場を2部屋確保して講座を開講したが、昨年7月にはコロナ罹患者が増大したことから、いわゆる三密を避けるために、参加者の多かった「親子陶芸教室」を7月下旬から9月上旬まで約2か月、活動停止とした。乳幼児を対象とした造形教室「絵の具なないろ」は、参加親子が10組程度だったため、停止することなく、継続して取り組んだ。

子ども理解の一助となったという感想が多く寄せられて活動の意義を実感

具体的な活動として、プロの陶芸家を講師とする親子陶芸教室は、昨年4月から今年2月まで、計19回実施した。親子造形教室「絵の具なないろ」は、同4月から3月まで、計12回(各回2講座)が開催した。後者では、講師・助手による子育てへのアドバイスや、絵画に現れる深層心理などについて、理事長の講話を聴く機会を設けた。また、活動の成果を発表する場として、親子陶芸教室作品展(2022年2月7日~19日、会場:CCAAアートプラザ ギャラリーフレンド)、絵の具なないろ展(2022年3月19日~20日、会場:CCAAアートプラザ ランプ坂ギャラリー)を開催した。

親子造形活動は、美術館などで夏休みなどの長期休

暇中に単発的に行われる場合が多いが、本事業では約1年間にわたって継続して取り組んだことに特徴がある。絵の具なないろでは、参加した幼児が当初、殴り書きのような表現しかできなかったのに、やがて図として成立し、描いたものを自ら説明するようにさえた。講師から絵の内容について知らされ、目をみはり、理解した母親の表情や、母親の励ましで用紙を継ぎ足し継ぎ足し、廊下の果てまで線路のように長い絵を仕上げている子どもの姿などが特に印象に残ったと、関係者は話す。親子陶芸教室では、母親や父親が子どもに手を貸すこともなく、子どもに寄り添いながら自らも作陶を楽しみ、それぞれの良さが表現された作品が沢山仕上がった。活動を通して、「子ども理解の一助となった」という感想が保護者から多く寄せられた。



親子陶芸教室に参加した子どもたちは、造形による豊かな感情が芽生えた



助成団体:特定非営利活動法人 市民の芸術活動推進委員会

<http://npo-ccaa.tokyo>



造形美術関連事業へのPOSCの支援の深まりに期待

NPO法人市民の芸術活動推進委員会は、組織発足から15年を経過し、現在16年目を迎えています。この間、複数回にわたって助成をいただき、事業の発展に多大な協力をいただいたことに心より感謝申し上げます。おかげさまで実り多い事業の実践が継続できております。

特定非営利活動法人 市民の芸術活動推進委員会
理事長 鈴木 弘之さん